

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者から職員に対して要望される理念を、利用者の手書きで作成して頂いているが、特に地域密着型サービスとしての内容が、現時点では含まれていない。</p> <p>○</p>	<p>現在の理念の中に、地域密着型サービスとしての特色を盛り込めるよう検討していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員理念を理解し、目標とし、日々の支援で実践している。</p> <p>○</p>	<p>職員・臨時職員という垣根を越え、共に支援するチームとしての認識を共有し、理念の実践に向けて日々努力している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会や家族会を通じて、地域で生活ことの重要性を理解して頂いている。また、来園される全ての方々に、ご理解頂けるよう、目立つ場所に、理念を掲示している。</p> <p>○</p>	<p>事業所に対する運営理念を、事業所を利用する者の立場からの希望や願いを取り入れた、利用者自らが筆を取った「運営理念」が掲示されている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>施設行事に招待し、地域行事に招待される等、良好な関係を築いている。また、地域の業者や、ボランティア等を巻き込み、近隣の方々の気軽な訪問ができる環境を作っている。</p> <p>○</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>同上</p> <p>○</p>	<p>地域での行事に参加及び事業所の行事にそれぞれ積極的に参加ができている。さらに交流を深めたい。</p>

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>シルバー110番(認知症専門相談窓口)を設け、24時間相談を受け付けているほか、講師や相談役として、地域の勉強会などに積極的に参加している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>施設職員でなく、外部の評価として、客観的な意見を聞くことができる貴重な機会として、全職員が意義を理解している。また可能なことから改善できるよう、会議などで話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>管理者だけが評価を行うのではなく、現場職員による評価を最優先にした取り組みは、今後も続けていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>特に要望されている、地域での介護予防・相談窓口としての役割に活かしている。</p>	○	<p>現場での具体的な改善案等につなげていくために、より深く現場を知って頂く機会を増やしていきたい。また、運営推進委員発足時より続けている、シルバー110番活動についても、更に充実化を図っていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政・民生委員・社協などの理解・協力を頂き、地域での相談窓口としての役割や、勉強会等に積極的に参加できていることに感謝している。</p>	○	<p>包括支援センター・社会福祉協議会等の各種団体の他、特に協力的支援が得られている地元サロングループ、ボランティアグループとのネットワーク化を更に図っていききたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現場職員全体には、まだまだ浸透していない。</p>	○	<p>権利擁護や、成年後見制度について、学ぶ機会を持ちたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「在宅介護において、虐待する方・される方ともに被害者である」という観念から、相談窓口を設けている。また、事業所内では、「小さなことが虐待につながる」という危機感を、全職員が理解し、常にお互いの支援の仕方について、気づき・話し合える関係を築いている。</p>	○	<p>事業所内だけの問題ではなく、在宅介護者等についての虐待防止についての活動についても、シルバー110番にて、介護者の不満やストレス、心配事や相談ごとなどの窓口が広がりつつある。</p>

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居・退居にあたり、関係医療機関の医師・管理者・現場職員等の意見や、運営規定を十分に説明している。また、利用者や家族からの疑問や不安にはご理解頂けるよう、継続して何度も説明している。</p>	<p>○</p> <p>事業所は今後更に、学生、一般住民のための実習の場として提供する方向であるため、更に詳細な説明を行い、その方針を理解、協力していただけるように図っていききたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」の設置や、個別での関わりの中、不満や苦情を吸い上げているが、認知症により表現できない方が多い。それを行動などから察し、改善できるようケース会議等で検討している。</p>	<p>○</p> <p>一部の利用者については、心配事や困りごとなどいつでも受け付けられる態勢ができてはいるが、能力によって実行できない方に対して、さらに本人の気持ちをくみ取り一つでも改善できるようなケース会議でありたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や電話で、必要に応じて状況報告をすると共に、月に一度、金銭の使用状況を送付・報告している。また、年4回の新聞の送付や、担当職員や本人直筆の手紙を送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会でのアンケートや、面会時の聞き取りなど行っているが、即時に対応できる内容がほとんどで、速やかに改善している。深刻な苦情内容がほとんど寄せられないため、より苦情の表しやすい機会を作るよう模索している。</p>	<p>○</p> <p>運営推進委員会や関係機関の協力を得て、家族が気軽に苦情を表せる機会や体制作りを模索中。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的なリーダー会議や個別面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、可能な範囲で反映させている。</p>	<p>○</p> <p>当法人が運営する地域密着型事業所について、それら各事業所のリーダーからなる「認知症支援対策研究室」をもうけ、各現場の状況などを検討する組織編制を作ることができた。さらにステップアップを図りたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個々の要望に応えられるよう、職員会議でその都度取り上げ、柔軟に業務調整を行っている。人材確保の問題から、必要十分な配置が困難なこともあり、業務を調整することで、出来る限り改善するよう努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が異動・離職するにあたり、継続して馴染みの生活を支援できるよう、担当者間の引継ぎや、家族・利用者への説明等、配慮している。</p>	<p>○</p> <p>書面での挨拶等で、より分かりやすく説明していききたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の充実を目的としたチームを設立し、定期的研修を行う機会を設けている。また、外部の研修にも、積極的に参加するよう指導している。</p>	<p>○</p> <p>個々の段階に応じた研修に、計画的に参加できるよう環境を整えたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会を立ち上げ、現在も事務局として動いている。それらを通して他事業所間との職員の交換研修や、勉強会を行い日頃のの支援に活かしている。</p>	<p>○</p> <p>親睦の意味合いもあった研修であったが、今後は、認知症支援技術者を育てる会へと前進し、専門性の高い技術を学べる会にしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に個別面談を行い、職員の不満や相談を聞く機会をもっている。また職員旅行など、日々のストレスからも開放される機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>個別アンケートなどを定期的に取り入れ、職員の精神的・体力的な状況を把握する以外に、職員の家庭の事情等の環境面についても配慮できる体制を強化したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>係りの活動や、行事の企画等、個々の長所や得意分野を活かした活動を行えるよう支援している。また、アンケートで「したいこと」等の調査を行い、それらを実現できる環境を整えている。</p>	<p>○</p> <p>同上</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>必ず本人との面談を行い、不安・希望等を聞いている。また、速やかに対応できるよう本人・家族・ケアマネ等からの情報を基に、受け入れ体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に個人面談を行うにあたり、管理者の一方的な対応ではなく、現場のリーダーも交えての柔軟な姿勢で対応できるように取り組んでいる。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の都合に合わせ、家族の思いを受け止め、正しい認知症の理解と事業所の役割等について話し合いができています。</p>	<p>○</p> <p>結果として、家族から本人を奪ってしまうことにならないように、また、当事業所の改善を要する事項なども話し合いによって確認していきたい。</p>

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・見学・入居申し込み等に応じ、様々なサービス利用の可能性を広げられるよう、他の事業所のサービス等を紹介したり、利用にあたってのアドバイスを行っている。	○	単独型事業所としてのターミナル期に至った場合の対応においても、年密に話し合いを行っていききたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時に、本人が不安を抱いている場合、お試し利用も勧めている。また、本人・家族からの情報提供から、より自宅の様子に近く、馴染みやすい雰囲気を、事前に整えるよう努めている。	○	センター方式のツールを採用して、家族や事業所だけの都合にならないように今後も進めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に「擬似家族や、馴染みの人」という意識を持ち、「介護者」という一方的な観念を否定している。日常的に利用者と生活を共にし、個別(1対1)の関係を深める中、利用者から教わること・手助けして頂くことが多い。	○	本人中心に、センター方式のツールを大いに活用していききたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族・職員と、共に外出したり、互いに出来ない部分を補い合い、本人を支えていく関係を築いている。また、勉強会などで在宅での介護経験をお話して頂いたり、職員が教わる機会も多い。	○	利用者・職員(介護される側・介護する側)という概念ではなく、障害や性別、年の差などはあるものの、人間対人間として共に暮らして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係が継続するよう、入居後も「家族としてできること」を提案させて頂いている。また、そのための(帰宅・外食・通院等)支援も行っている。家族・本人の双方の思いに耳を傾け、助言は行うが、過度な干渉にならないよう、気をつけている。	○	「認知症」によって、本人と家族の心がバラバラになったまま入居を迎えると、双方が離れていく危険性が多い。事業所として、それまでの苦労や憎しみなども汲み取り、少しでもいい関係が今後は双方共に築けるように、精進していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は、個別に対応している。馴染みの人(家族以外の)については、なかなか会いに行くことが実現できないが(日程の調整等)、いつでも来園して頂けるよう、面会時などにお誘いしている。	○	家族・関係者等とよく調整し、馴染みの人との再会できる機会をもっと増やしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同で行う作業や、気の合う者同士の外出など、職員が常に意識して支援している。また、良好な関係が保てない場合も、会話の橋渡しや、席替えなどに気を配り、険悪な関係にならないよう支援している。	○	どうしても、軽度の方から見ると重度の方が立場的に孤立しやすい。まずは、職員がそれぞれのハンディーがあっても平等に接する姿を見て頂き、そこに生きている者同士が分かち合える環境を目指したい。

グループホームちくりんえん

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他施設へ入居・入院などがあっても、馴染みの利用者と面会に行くことがある。また、退居後の不幸にも、馴染みの利用者と告別式に参列させて頂くなど、(施設という概念でなく)一般のお付き合いを継続している。</p>	<p>○</p> <p>シルバー110番を通じて、利用終了なされた家族等と協力して、市民に対する認知症勉強会へ共に講師として体験者としての発表の機会を設けている。対象となる全ての家族に対し、協力は得られないものの、事業所として積極的に長いお付き合いの中における「協力関係」を続けていきたい。</p>
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の考え方を基本とし、会議前のアセスメント・会議での検討事項も、本人本位で進めている。</p>	<p>○</p> <p>センター方式の各種ツールの狙いなどを、一人でも多くの職員や家族に勉強会を通じて理解を求め、その人らしくあるために全員で力を合わせていきたい。</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前・入居後も、家族や本人から聞き取りをし、知り得た情報を追加していくことで、その方の歴史を、しっかりと把握できるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>同上</p>
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>担当職員は、担当利用者の日常の様子を特に気にかけるよう努めている。さらに、ケース会議や職員会議では、担当者が本人・家族・他職員から、様々な視点・項目の情報を収集して支援方針を話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>認知症の進行と並行したサービスが提供できるように、こまめな気づきや発見を生かして行きたい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたり、センター方式の考え方を基本とし、会議前のアセスメント・会議での検討事項も、本人本位で進めている。</p>	<p>○</p> <p>チーム(ケア関係者・家族)以外にも、友人や知人、孫やペットに至るまでをチームとし、一丸となってサービスを計画していきたい。</p>
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>対象者の変化に伴い、随時ケアプランの変更を行っている。</p>	

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・日誌に、それぞれ記入し、全職員が把握するよう努めている。また、ケアプランのアセスメントやモニタリングの参考にしている。	○	個別記録の充実(より細かな記述)が必要と考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者を自宅まで送迎したり、家族による通院や、外出・外食などに職員が付き添うなど、要望に応じて、柔軟に対応している。	○	デジタル化したマニュアル通りのサービスではなく、アナログ的な体制を持つての支援を続けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	朗読ボランティアや学校からの体験学習の受け入れ・祖父母参観への参加、避難訓練・公共施設の利用・祭りや行事への参加等、あらゆる地域資源に協力頂き、本人を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームのため、他の介護サービスは活用できないが、様々な地域資源を活用し、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に参加して頂き、貴重なご意見を頂いている。	○	当事業所のアナログ的な特性を理解していただき、第三者からの意見や苦情等をPositiveに消化していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、園のかかりつけ医の往診があり、適切な医療を受けて頂いている。また、園のかかりつけ医でない医療機関を選択されても、通院や医師との連携等、気を配っている。	○	事業所の都合で主治医が決定されることがないように、利用者の馴染みの医師の所まで通院ができています。しかし、人手不足の折、可能な範囲でしか行うことが出来なくて来るのではと心配される。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に専門医や、認知症に詳しい医師が少なく、介護の現場に活かせる指導や助言が頂けていないのが現状。利用者個々では、神経科や脳外科の医師に頼っているが、施設職員としては相談・連携をとれる医師が地域にいない。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人下の看護師と、日頃の情報交換や緊急時の助言など、気軽に行えている。	○	利用者と、より関わりの深い看護師が必要。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、職員が何度も面会に行き、状況の変化を見るよう努めている。その都度、「退院に向けて」・「退院後の支援方法について」、把握検討できるよう、医師や看護師から情報を頂いている。	○	今後は、訪問看護事業所との連携も視野入れて、ある程度、事業所において治療ができる体制を検討していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の助言の下、家族と職員が度々話し合う機会を設けている。また、長期的にみて、方針が(誤解や解釈の違いで)かみ合わなくなることがあるため、その都度話し合い、共有している。	○	事業所の思いだけにならないように、本人や家族の思いを優先させての方針を固めている。さらに、単独型事業所として、「できる事・出来ない事・条件がそろえば出来ること」等も申し送り、承諾していただいている方針となっている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「できないこと」を、事前に十分に説明し、ご理解頂き、「できること」を最大限に活用し、本人や家族の要望に添えるよう、細かな検討を行っている。	○	同上
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	慣れ親しんだ環境に、少しでも近い準備が整えられるよう、密な情報提供を行っている。	○	事業所の思いだけで、環境を整えるのではなく、センター方式のツールを家族とともに作り上げ、本人中心の居住空間創りに専念していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳については、全職員が十分に理解しており、誇りやプライバシーを損ねる言動がないか、良い意味で互いに観察・注意をし合っている。	○ 他者からの助言だけでなく、職員の自己評価も行っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の力に添った言葉やジェスチャーで、分かりやすく説明し、急かさずじっくりと関わりながら、本人の選択を引き出すように対応している。また、表現しにくい方に対しては、言動などをよく観察することで、本人の意思を察するよう、努めている。	○ 介護職員は、意思決定等が難しい方でも、その人の好みや嗜好等を把握したうえで、適切な支援が提供できるようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重できるよう、毎日の日課や決まり事は、最小限に止めている。個々の気分や希望に添って、柔軟に対応している。	○ 事業所にあるすけじーるや業務時間は、あくまでも「目安」であるという認識を、新任職員受け入れ時より繰り返し伝えていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類や小物は、依頼が無い限り本人や家族に用意して頂いている。理容・美容は、望まれる店に行ってもらえるよう、支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理も食事も、常に利用者と職員共同で行い、食事の楽しみを分かち合っている。	○ 畑が隣接しており、取り立ての野菜や、タケノコ、山菜なども、利用者によって育てられ、利用者が採り、利用者によって調理され、皆で頂ける環境がある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	妥当性や医療的に問題が無ければ、特に嗜好品を管理する必要がない。賞味期限や適量の判断がつかない場合は、本人の了解を得て、希望時に渡せるようお預かりしたり、助言したりしている。	

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握、適時のトイレ誘導などで、できるだけオムツの使用開始時期を遅らせるよう支援している。使用し始めた場合も、排泄を不快に感じないように、様々なタイプのオムツやパットを検討し、時間毎・季節毎・本人の好みに合わせ、最善の選択をするよう努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応設定しているが、希望があればいつでも入浴して頂ける。(現在、入浴が嫌いな方がほとんどであり、自ら希望されることが現在は無い。)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝具等も全て本人や家族が用意した、慣れ親しんだものであり、安心できる環境を整えている。また、休息も活動も本人の自由である。	○	一方、ドアを開けて回ることが好きな方がおられ、不安感を持つ利用者が多い。検討しているが、改善策が見つからない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の活動は勿論、毎月1～2回、職員が個別に利用者と過ごす機会があり、本人の力・要望・趣味等に合わせ、思う存分楽しんで頂く機会を設けている。弁当作りやおはぎ作り、温泉に入浴したり、ご詠歌の講師をお願いしたり、故郷を訪ねたりと、個々に様々な支援ができ、喜んで頂いている。	○	家族や孫が参加できる機会を検討していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に支援を必要とされる方が多く、完全に所持・管理して頂くことはできないが、本人が不安な場合など、家族の了解を得て、少額を所持して頂いている。また、金銭に触れる機会を奪うので無く、商店で欲しいものを買ったり、園内の売店で購入されたりと、金銭感覚を失わないよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブ・散歩・畑・喫茶・イベント参加等、希望に沿って支援している。	○	ほとんどの利用者にとって、社会参加は適度な刺激になり、楽しみでもあるが、義理と厄介ではなく、本当にその人が好むプランを今後も提供していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	要望があれば、どこでも(常識の範囲内で)出かけて行く。個別デイを活用したり、家族に提案したりと、様々な所へ出かけている。	○	個別旅行には、家族や孫の参加経歴があり、今後もこの機会を増やして行きたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は勿論のこと、本人の様子を察しながら、働きかけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時に居室で共に食事をしたり、一日中園にいて利用者の身の回りを整えていく家族もある。我が家同然の気軽さで訪ねて来られる方も多い。(家族だけでなく、元スタッフやボラ、お友達等)		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設でも、身体拘束はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分間に5～10回以上、玄関から外へ出てしまう。(本人にそのような意図はないが)両下肢の筋力低下があり、転倒の危険性が高く、片時も離れず同行することが不可能なため、家族に説明と了解を得て、やむを得ず一時的に施錠している。職員間でも、施錠が当たり前にならないよう、随時会議などで話し合いを行っている。	○	開放している時間を増やして行きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は主にホール担当の職員が、夜間は夜勤者が、定時に所在確認や状況観察を行っている。同時に、プライバシーに配慮し、過度な干渉がないよう、心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤等の毒物の管理はしているが、生活の中で(一般家庭で)当たり前にあるようなものは、あえて当り前の場所に置いてある。今後も、「職員側のミスが原因で、撤去する」ことがないように、当り前のものが当り前の所に置き続けることができるようにしたい。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの必要に応じて、訓練・研修・会議などを通して学び、事故防止に取り組んでいる。	○	ひやりハットにおいて、小さな事でも、検討し合える様に更に取り組んでいきたい。

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力の下、救急救命訓練を受けている。また、強化したい内容から順次、内部・外部の研修を行い、事故発生に対応できるよう準備している。	○	研修を受けていない職員から、順番に訓練等受けられるよう、体制を整えたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	認知症高齢者のため、利用者自身が避難する方法を身につけるのは大変困難であるが、消防署や地域の消防団、同法人下の近隣の施設と連携し、対応できるような体制がある。	○	非常時の食料や水についても、備えていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の体力や主疾患等に対し、施設として「できること・できないこと」を家族に説明している。また、予想できるリスクを具体的に伝え、その中でどう対応していくべきか、話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックや、様子観察など、その日のリーダー職員が責任を持って情報収集し、心身の変化を共有できるよう、記録・医師との連携・急変時の受診など行っている。また、徐々に表れる精神面での変化には、会議等で速やかに検討・対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は、速やかに日誌に記録し、職員全員が把握すると共に、薬局からの副作用に関する説明書なども、誰もが確認しやすい場所に保管している。変更に関して、前後の心身の変化も、随時記録し、医師に報告している。	○	現在は、確認した職員が捺印を押すなど、徹底して連絡を行っているが、利用者の個人情報に基づいての、確認となる様に続けていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	安易に服薬に頼らないよう、常に十分な水分補給や繊維質、乳製品等の食材を心がけ、運動量などにも気を配っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々の状況に応じた口腔ケアを行っている。		

グループホームちくりんえん

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事がバランス良く提供されているか、個々の習慣や嗜好が取り入れられているか等、検討するため、食事係りが結成されている。また、同法人下の栄養士と、給食委員会を開催し、旬の食材の取り入れや、カロリー、献立作り等に助言をもらっている。	○	業務との兼ね合いで、給食委員会が滞ってしまうことがある。定期的に継続できるよう、調整していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	同法人下の看護師の助言の下、感染症マニュアルに沿った対応をしている。また、様々な感染症に対応し、個々の状況に合った消毒、洗濯物の分別、入浴方法等、日々実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は、都度よく洗浄し清潔に努めているのは勿論、日に一度は、まな板等の消毒を行っている。食材も、常に安全で新鮮なものを提供できるよう、地元産を中心に購入・調理・管理を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	美化係りを中心に、利用者と共に草引きを行ったり、玄関周りに草花を育て配置したり、玄関内の飾りなども、アットホームな環境作りに努めている。	○	職員は、「事業所のために、事業所のものだから」という思いで行うのではなく、「自分たちのもの」という感覚で気軽に取り組めるよう指示を行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	美化係りを中心に、施設という概念を捨て、一般的な家庭環境に近づけるよう、工夫している。季節に応じた飾りなども、利用者と共に創作している。	○	大人のための空間も視野に入れ、脱施設を目指して多彩な趣味なども取り入れている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、セミパブリックなスペースの確保が困難だが、ソファの配置や、屋外のベンチ等を利用し、気の合う者同士が、気兼ねなく過ごせるよう、気を配っている。		

グループホームちくりんえん

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具・道具は、(特別な依頼がない限り) 全て本人か家族が用意した、慣れ親しんだ物である。また、模様替えなども、本人の好みに応じて支援している。	○	認知症の進行とともに、新しい趣味や興味のあるものについても、取り入れている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高齢者の体感温度に常に気を配り、空調を調節している。また、換気も頻繁に行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全な見通しを求めたり、必要な障害物(家具等)を排除するだけでなく、一般家庭にあり得る環境にしつらえている。過剰なバリアフリー仕様にならないよう、配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な支援や一方的な「介護」を否定し、本人が必要としている時を察知し、さり気ない支援が出来るよう努力している。また、失敗も笑って受け入れる関係を築き、自尊心を傷つけないようなフォローを心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外も利用者のスペースとして、休息・語らい・散歩・草花の育成・畑作業・洗濯物干し等、存分に活用して頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

1、個別デイ：毎月1～2回は、利用者と職員が1対1で、一日を自由に過ごす日を設けている。事前に希望を聞き取って実現させたり、具体的に思い浮かばない場合、その日の気分に合わせて気ままに行動を共にする等、柔軟な姿勢で取り組んでいる。温泉・映画鑑賞・故郷めぐり・外食・お菓子作り等、様々な希望や発想が実現されてきた。利用者・職員共に楽しみ、リフレッシュできる機会として定着しており、また、一日をじっくりと共有することで、利用者との関係をさらに深める良い機会となってきている。

2、シルバー110番：認知症専門相談窓口。当施設では、24時間無料で電話相談を受け付ける他、必要に応じて他サービスの紹介や橋渡し、希望者には家庭に出向き、認知症についての勉強会などの活動を行っている。また、地域の協力者の方々に、当施設で基礎知識・専門知識を習得して頂き、シルバー110番の地域での拠点（ホットライン）となって活動して頂いている。「施設に入ることなく、馴染みの環境で生活するために」を、テーマに、在宅介護支援に積極的に関わり、介護予防・虐待防止に努めている。

3、MACKの結成：認知症介護研究チーム「MACK」を結成し、同法人下での内部研修等を充実させている。結成間もないが、チームの柔軟な発想で、現場職員の専門性をより深める活動を模索している。